

高分子・樹脂

調査レポート

収集日: 2026年04月04日

全 15 件

自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

高分子・樹脂 Weekly Report

2026年04月04日 | 15件 | 5カ国

■ 今週の動向

今週の高分子・樹脂業界は、電動車両向け軽量化技術の革新と持続可能性への取り組みが加速する一方、原材料コスト上昇と供給過剰による価格変動および企業戦略の再編が顕著でした。特に、ハイブリッド複合材のEVバッテリーハウジングが自動車賞を受賞し、サステナブルなPETリサイクルシステムやバイオマスバランス型ポリマーの展開が進展。しかし、エンジニアリングプラスチックの価格引き上げや、ポリカーボネート市場の低迷による生産撤退といった課題も浮上しており、業界は環境変化への適応を迫られています。DCDPSのような高機能ポリマー市場は着実な成長を見せ、技術投資の重要性が再認識されました。

■ 注目トピック

EV軽量化革新 #01

ハイブリッド複合材EVバッテリーハウジングがSPE自動車賞を受賞し、10-20%の軽量化と最大30%

エンジニア樹脂値上げ #02

BASFが北米でUltramidやUltradurなどのエンジニアリングプラスチック製品の価格を引き

PETリサイクル #05

CoperionがChinaplas 2026で最大10トン/hの処理能力を持つ新しい標準化されたP

DCDPS市場成長 #08

高機能ポリマーの需要増加に牽引され、世界のDCDPS市場は2036年には7億4214万ドルに達すると

PC生産撤退 #14

三菱ガス化学はポリカーボネート事業の収益性低迷と市場の供給過剰を理由に、2028年3月末での鹿島工場

■ カテゴリー別動向

自動車・EV (3件)

#01, #11, #12

EV向け複合材の革新が評価される一方、自動車産業は再生材調達課題に直面し、貿易協定の影響も注視されています。

価格・市場動向 (6件)

#02, #06, #08, #13, #14, #15

主要サプライヤーによるエンジニアリングプラスチック等の値上げが続く中、アジア地域でのPVC価格は変動し、DCDPS市場は成長予測の一方、供給過剰によるポリカーボネート生産撤退も見られます。

サステナビリティ・リサイクル (4件)

#05, #07, #09, #12

PETリサイクルシステムやバイオマスバランス型ポリマーといった具体的な循環経済への貢献が進む一方、効果的な廃棄物管理の重要性や自動車分野での再生材不足が課題として浮上。

高機能材料・加工 (3件)

#03, #04, #10

PEEKポリマーの金属代替利用や医療用フッ素樹脂の精密成形技術、スポーツシューズ向け高性能TPUなど、特定の高性能材料とその加工技術革新が注目されます。

■ 今後のロードマップ

2026年前半

Chinaplas 2026での新製品・システム発表 (Cop)

2026年 - 2036年

DCDPS市場の継続的な成長予測

2028年3月末

三菱ガス化学によるポリカーボネート生産の終了

■ 今後の展望

今後2-3年、高分子・樹脂業界は電動車両向け軽量化材料や高機能ポリマーへの需要増に牽引され、着実な成長が期待されます。特に、再生材利用の拡大とバイオマス由来材料へのシフトは持続可能性目標達成の鍵となりますが、供給制約やコスト圧力は継続的な課題となるでしょう。サプライチェーンの安定化と原材料価格の動向が企業の収益性を左右し、技術革新と効率的なリサイクルシステムの構築が競争優位性を確立する上で不可欠となります。DCDPS市場のように特定の高性能ポリマー分野では、2036年には7億ドルを超える市場規模が予測されており、戦略的な投資が求められます。

10-20%

EVバッテリーハウジング軽量化

最大30%

EVバッテリーハウジング生産コスト削減

7億4214万ドル

DCDPS市場規模予測 (2036年)

12万トン/年

MGCポリカーボネート生産能力

#01 SPE自動車賞が革新的なハイブリッド複合材EVバッテリーハウジングを表彰

公開日 2026年04月01日 | Nicety Machinery | ドイツ



概要

自動車技術者協会（SPE）は、ドイツで開催された自動車賞で、SABICとForward Engineeringが共同開発した次世代ハイブリッド複合材EVバッテリーハウジングを表彰しました。この革新的な設計は、Tepex® Dynaliteポリプロピレンガラス繊維シートとPP STAMAX™トレイの多層サンドイッチ構造を採用。従来の全金属製設計と比較して10～20%の軽量化、およ

び最大30%の生産コスト削減を実現し、電動車両市場の重要なニーズに応えます。

詳細

背景

電気自動車（EV）市場の急速な拡大に伴い、バッテリーシステムは車両の性能、航続距離、安全性、そしてコストに直結する最も重要なコンポーネントとなっています。バッテリーハウジングは、これらの要素を保護し、車両全体の重量と製造コストに大きな影響を与えるため、軽量化とコスト効率の向上が強く求められています。特に、金属製ハウジングはその重量と複雑な製造プロセスが課題となっていました。

主要内容

Society of Plastics Engineers (SPE) は、その自動車賞において、SABICとForward Engineeringの共同開発による画期的な次世代ハイブリッド複合材EVバッテリーハウジングを称賛しました。この受賞技術は、高性能ポリプロピレン（PP）ガラス繊維シートであるTepex® Dynaliteと、PP STAMAX™トレイを組み合わせた多層サンドイッチ構造を特徴としています。この設計により、従来のオールメタル製ハウジングと比較して10~20%の重量削減を達成し、同時に製造コストを最大30%削減するという顕著な成果を上げています。複合材料の戦略的な使用は、強度と剛性を維持しながら軽量化を実現するだけでなく、部品統合を可能にすることで組み立て工程の簡素化にも貢献します。

影響と展望

このハイブリッド複合材バッテリーハウジングの開発は、自動車産業における軽量化とコスト削減の新たなベンチマークを確立するものです。高性能エンジニアリングプラスチックと複合材料の活用は、EVの航続距離延長、エネルギー効率向上、そして製造プロセスの合理化に不可欠な役割を果たします。特に、バッテリーハウジングのような安全性と信頼性が極めて重要な部品において、複合材料が金属と同等、あるいはそれ以上の性能を低コストで提供できることは、EV技術の普及と持続可能性を大きく加速させるでしょう。今後も、このような先進的な材料ソリューションが、自動車の設計と製造のあり方を大きく変革していくと期待されます。

元記事: <https://nicetymachine.com/10-engineering-plastics-plastic-processing-industry-news-briefs/>

#02 BASF、北米でエンジニアリングプラスチック製品の価格を引き上げへ

公開日 2026年03月31日 | BASF | アメリカ



概要

BASFパフォーマンスマテリアルズは、2026年3月31日付または契約許容時に、北米における主要なエンジニアリングプラスチック製品の価格を引き上げると発表しました。対象製品にはUltradur®、Capron®、Nypel® PA複合製品（0.16ドル/ポンド増）、Ultradur® PBT製品（0.15ドル/ポンド増）、Petra® rPET製品（0.12ドル/ポンド増）、Ultraform® POM製品（0.11ドル/ポンド増）などが含まれます。

詳細

背景

世界の化学産業は、原油価格の変動、エネルギーコストの高騰、サプライチェーンの混乱、そして地政学的な緊張による原材料費や物流費の上昇といった多岐にわたるコスト圧力に直面しています。特に高機能なエンジニアリングプラスチックの製造には、複雑な合成プロセスと高度な技術が必要であり、これらのコスト変動は製品価格に直接的に影響を及ぼします。

主要内容

大手化学企業BASFのパフォーマンスマテリアルズ部門は、2026年3月31日以降、または既存契約の許容範囲内で、北米市場における複数のエンジニアリングプラスチック製品の価格を引き上げると発表しました。具体的には、Ultradur®、Capron®、Nypel®といったポリアミド（PA）系複合製品は1ポンドあたり0.16ドルの値上げとなります。ポリエチレンテレフタレート（PBT）系のUltradur®製品は0.15ドル/ポンド、リサイクルPETをベースとしたPetra® rPET製品は0.12ドル/ポンド、そしてポリアセタール（POM）系のUltraform®製品は0.11ドル/ポンドの値上げが実施されます。BASFは、これらの価格調整が市場の動向とエンジニアリング樹脂サプライチェーン全体で継続しているコスト圧力によるものであると説明しており、一部の特殊グレードではさらに高い価格上昇が見込まれる可能性も示唆しています。

影響と展望

BASFによる今回の価格改定は、北米だけでなくグローバルなエンジニアリングプラスチック市場における広範なトレンドを反映しており、自動車、電気・電子、消費財、産業機械など、これらの材料を使用する多岐にわたる産業に影響を与えるでしょう。特に、高性能と軽量化を追求する自動車産業や、耐久性と信頼性が求められる電子機器メーカーにとっては、原材料コストの上昇が製品の最終価格や収益性に直接的な圧力となります。企業は、サプライチェーン全体でのコスト効率化、代替材料の検討、あるいは顧客への価格転嫁を通じて、これらの変動に対応していくことが求められます。この動きは、エンジニアリングプラスチック市場の価格設定における新たな基準となる可能性があり、今後の市場動向が注目されます。

元記事: <https://www.basf.com/us/en/media/market-news-/2026/BASF-to-increase-prices-for-Engineering-Plastics-in-North-America->

#03 Pexcoが高性能PEEKポリマーによる金属代替ソリューションを強調

公開日 2026年04月03日 | Pexco | アメリカ

概要

北米のカスタムプラスチックソリューション大手Pexcoは、VICTREX® PEEK™ポリマーを金属代替用途における高性能材料として紹介する記事を公開しました。PEEKの優れた特性、特に耐衝撃性、200°Cまでの耐薬品性、および260°Cまでの連続使用温度における高温耐性を強調しています。同社はPEEK製ポペットによるコンプレッサーバルブ性能向上事例を挙げ、コスト削減と品質改善の可能性を示しました。

詳細

背景

産業界では、製品の軽量化、耐久性の向上、コスト削減が常に求められています。特に、金属部品が多用される分野では、耐腐食性、耐摩耗性、疲労特性といった点で高性能ポリマーへの代替が注目されています。金属と比較して、特定の高性能ポリマーは、より優れた特性プロファイルを提供しつつ、加工の容易さや部品統合によるコスト削減の可能性を秘めています。

主要内容

カスタムプラスチックソリューションのリーディングカンパニーであるPexcoは、VICTREX® PEEK™ (ポリエーテルエーテルケトン) ポリマーが、金属代替用途において優れた高性能材料であることを強調する記事を発表しました。この記事では、PEEKが持つ独自の特性の組み合わせが、要求の厳しい環境下でのエンジニアリングソリューションとして理想的であることを詳述しています。PEEKの主な利点は以下の通りです。

- **優れた耐衝撃性:** 数百万回の衝撃サイクルに耐えることが実証されています。
- **高い耐薬品性:** 200°Cまでの高温環境下でも優れた化学的安定性を維持します。
- **優れた耐熱性:** 連続動作温度が260°Cに達し、融点である340°Cに近い温度でも短期的な機械的特性を維持します。

Pexcoは、PEEKポリマーの具体的な適用事例として、コンプレッサーバルブの性能向上を挙げました。従来2ピース構造の金属製アセンブリをPEEK製ポペットに置き換えることで、大幅なコスト削減と製品品質の向上を実現したと報告しています。

影響と展望

VICTREX

PEEKポリマーの採用は、航空宇宙、医療、石油・ガス、自動車など、極めて過酷な環境下で使用される部品の設計と性能に革命をもたらす可能性を秘めています。金属からの代替により、部品の軽量化、耐腐食性の向上、長寿命化、そしてメンテナンスコストの削減が期待されます。さらに、PEEKは射出成形や押し出し成形といった加工方法に適しているため、複雑な形状の部品を効率的に製造できる利点があります。この技術は、産業界が持続可能性と効率性を追求する中で、高性能材料の適用範囲をさらに拡大し、新たなイノベーションを促進する重要な推進力となるでしょう。

元記事: <https://www.pexco.com/news-and-events/victrex-peek-polymer/>

#04 Pexcoが医療・ライフサイエンス向けフッ素樹脂射出成形プロセスを発表

公開日 2026年04月03日 | Pexco | アメリカ

概要

Pexcoは、医療およびライフサイエンス市場向けにコスト効率の高い適合性フッ素樹脂部品を製造するための独自の射出成形プロセスを発表しました。PFA、PEF、ETFE、PTFE、PVDFなどのフッ素樹脂は、生体適合性、潤滑性、滅菌性、化学的不活性、広範な温度安定性、高純度などの特性により、医療分野で高く評価されています。しかし、これらの材料は高価で、せん断感受性、高い融点、フッ素ガス放出のため、射出成形が困難でした。

詳細

背景

医療およびライフサイエンス分野では、生体適合性、滅菌耐性、化学的不活性、広範な温度範囲での安定性、そして高純度という非常に厳しい要件を満たす材料が不可欠です。フッ素樹脂（フルオロポリマー）は、これらの要求を満たす理想的な材料として知られていますが、その特殊な物性により、従来の射出成形技術では加工が非常に困難であり、コストも高くなる傾向がありました。

主要内容

Pexcoは、医療およびライフサイエンス市場向けに、コスト効率よく適合性の高いフッ素樹脂部品を製造するための独自の射出成形プロセスを開発したと発表しました。この技術革新は、PFA、PEF、ETFE、PTFE、PVDFといったフッ素樹脂が持つ、以下の優れた特性を最大限に活かすことを目的としています。

- **生体適合性:** 体内での使用に適しています。
- **潤滑性:** 低摩擦が求められる用途に有用です。
- **滅菌性:** 高温高圧蒸気滅菌など、様々な滅菌方法に対応します。
- **化学的不活性:** 多くの化学物質に対して反応しません。
- **温度安定性:** 広範囲の温度で性能を維持します。
- **高純度・低溶出性:** 医療用途で特に重要です。

フッ素樹脂は、そのせん断感受性、高い溶融温度、そして成形時に発生するフッ素ガスの腐食性のため、射出成形が困難とされてきました。Pexcoの独自プロセスは、これらの課題を克服するために、せん断力を大幅に低減する特殊なホットランナーシステムと金型設計を採用しています。これにより、樹脂の機械的特性を損なうことなく成形が可能です。さらに、フッ素ガスによる腐食に耐性のある専用の冶金技術を用い、高価なフッ素樹脂の無駄を最小限に抑えるダイレクトゲート多キャビティ金型設計を導入しています。

影響と展望

このフッ素樹脂射出成形技術の進化は、医療機器、診断装置、バイオ医薬品製造用部品など、高機能かつ高信頼性が求められる製品分野において、フッ素樹脂の適用範囲を大きく広げるでしょう。加工コストの削減と生産効率の向上は、最終製品の市場競争力強化に貢献し、より複雑で精密なフッ素樹脂部品の量産を可能にします。この技術は、医療分野の技術革新を加速させるとともに、高機能材料の可能性を追求する他の産業分野にも応用が期待されます。

元記事: <https://www.pexco.com/news-and-events/proprietary-fluoropolymer-injection-molding-process-2/>

#05 CoperionがChinaplas 2026で新型PETリサイクルシステムを発表

公開日 2026年04月01日 | Nicety Machinery | ドイツ



概要

混練押出システムの主要メーカーであるCoperionは、Chinaplas 2026で新しい標準化されたPETリサイクルシステムを発表します。このシステムは、500 kg/hから最大10トン/hの処理能力を持ち、ボトル・ツー・ボトル、ボトル・ツー・シート、ボトル・ツー・ファイバー、トレイのリサイクルなど、幅広い用途に対応します。固体状態重合（SSP）反応器と統合する

ことで、EFSAまたはFDAの直接食品接触基準を満たすPETリコンパウンドを生産可能です。

詳細

背景

世界的なプラスチック廃棄物問題の深刻化と、循環型経済への移行の必要性から、PET（ポリエチレンテレフタレート）のリサイクル技術への需要が急速に高まっています。特に、ボトル・ツー・ボトルや食品接触用途へのリサイクルは、厳格な品質基準を満たす必要があり、高度な技術と効率的なシステムが求められています。

主要内容

混練押出システムの世界的リーダーであるCoperionは、アジア最大のプラスチック・ゴム見本市であるChinapias 2026において、革新的な標準化PETリサイクルシステムを発表する予定です。この新システムは、500 kg/hから最大10トン/hという幅広い処理能力に対応し、小規模から大規模なリサイクルプラントまで柔軟に適用可能です。システムは多用途性を持ち、ボトルからボトルへの再利用（ボトル・ツー・ボトル）、シート材への加工（ボトル・ツー・シート）、繊維製品への変換（ボトル・ツー・ファイバー）、さらには使用済みトレイのリサイクルなど、多様なPETリサイクルアプリケーションに対応します。特に重要なのは、このシステムが固体状態重合（SSP）反応器と統合されることで、欧州食品安全機関（EFSA）や米国食品医薬品局（FDA）が定める直接食品接触基準を満たす高品質なPETリコンパウンドの生産が可能になる点です。これにより、リサイクルPETの市場価値と利用範囲が大幅に拡大します。

影響と展望

Coperionの新しいPETリサイクルシステムは、プラスチック廃棄物の削減と持続可能な資源利用を促進する上で大きな一歩となります。食品グレードのリサイクルPETの安定供給は、飲料メーカーや食品包装メーカーがリサイクルコンテンツ目標を達成する上で不可欠であり、ブランドオーナーの環境責任へのコミットメントを強化します。また、同社はアップグレードされたSTS 96 Mc PLUS二軸押出機も展示し、最大20%の処理能力向上を実現することで、ポリマー加工およびリサイクル工程の効率化に貢献します。これらの技術革新は、PETリサイクル産業全体の成長を加速させ、より持続可能な社会の実現に向けた重要な役割を果たすと期待されます。

元記事: <https://nicetymachine.com/10-engineering-plastics-plastic-processing-industry-news-briefs/>

#06 アジア地域におけるPVC価格動向：東南アジア・中国で上昇、インドは安定

公開日 2026年04月03日 | Plastic Updates | シンガポール

概要

最新の報告によると、東南アジアおよび中国市場でポリ塩化ビニル（PVC）の価格が上昇傾向にあり、一方でインド市場では今週、価格が安定を保っています。この価格変動は、供給と需要の動向および地域ごとの市場条件の差異に起因すると考えられます。原材料費の高騰や物流課題が、一部地域での価格上昇に寄与している可能性があります。

詳細

背景

ポリ塩化ビニル（PVC）は、建築・建設、医療、自動車、電線被覆など幅広い産業で利用される主要な汎用プラスチックです。その価格動向は、原油価格やナフサ価格、クロールアルカリ製品の市況、そして地域ごとの需給バランスに大きく左右されます。近年、グローバルサプライチェーンの不安定化やエネルギーコストの変動が、ポリマー市場全体に不確実性をもたらしています。

主要内容

最新の市場レポートによると、2026年3月28日から4月4日の期間において、アジア地域におけるPVC価格に明確な地域差が見られました。特に、東南アジアおよび中国市場ではPVC価格が上昇傾向を示しています。この背景には、製造業活動の活発化による需要の増加、原油価格高騰に伴う原材料（エチレン、塩素など）コストの上昇、および物流コストの増加が複合的に作用していると分析されます。一方、インド市場では、同期間中にPVC価格が安定を保っていると報告されています。これは、インド国内でのPVC生産能力が比較的高く、特定の時期において国内供給が需要と均衡している可能性、あるいは政府の価格安定化策や輸入関税などの影響が考えられます。

影響と展望

PVC価格の地域差は、アジア域内の関連産業、特に建設、インフラ、製造業のコスト構造に直接的な影響を及ぼします。東南アジアや中国で事業を展開する企業は、原材料コストの上昇による製造費の増加に直面する可能性があります。これが最終製品価格に転嫁されるか、あるいは企業の収益性を圧迫する可能性があります。一方、インド市場の安定は、現地企業にとって比較的予測可能な調達環境を提供します。今後、これらの地域間での貿易動向や投資戦略に変化が生じる可能性があり、国際的なサプライヤーや購入者は、各地域の市場特性と供給動向をより詳細に分析し、リスクヘッジ戦略を策定する必要があるでしょう。長期的には、各国の経済成長や環境規制の強化が、PVCの需要と価格構造にさらなる影響を与えることが予想されます。

#07 廃棄物管理が効果的な国ではプラスチック排出量が推定より低い可能性

公開日 2026年03月30日 | European Commission - Environment | 欧州

概要

新しい確率モデルを用いた研究によると、効果的な廃棄物管理システムを持つ国々では、環境へのプラスチック排出量が従来の推定よりも低い可能性があることが示唆されました。スイスを対象とした調査では、排出の95%以上が土壌に到達し、表面水への流入は5%未満であることが判明しました。主な排出源は包装廃棄物と合成繊維であり、マクロプラスチックが全体の82%を占めました。

詳細

背景

プラスチック汚染は地球規模の環境問題であり、その正確な排出量と環境中での挙動を理解することは、効果的な対策を講じる上で不可欠です。これまで、プラスチック排出量の推定は様々なモデルに基づいて行われてきましたが、特に高度な廃棄物管理システムを持つ国々における実態との乖離が指摘されることがありました。

主要内容

欧州委員会環境総局が公開したニュース記事によると、新しい確率モデルを用いた研究が、効果的な廃棄物管理システムを持つ国々でのプラスチック環境排出量が、これまでの推定よりも低い可能性を示唆しています。この研究はスイスをケーススタディとし、2022年における一人あたり年間222 (±50) グラムのプラスチックが環境に放出されたと推定しました。注目すべきは、この排出量の95%以上が土壌環境に到達し、湖や河川などの表面水への流入は5%未満に留まっているという点です。排出源としては、包装廃棄物と合成繊維が主要であり、プラスチックペレット、包装資材の散乱、建設資材、自動車関連製品など、使用後の製品に由来するマクロプラスチックが排出量全体の82%を占めました。このモデルは、住居地域、農業地域、道路沿いの環境といった異なる排出経路を詳細に区別して評価する新しいアプローチを採用しています。

影響と展望

この研究は、プラスチック汚染評価の精度向上に貢献するだけでなく、政策立案者に対し、よりターゲットを絞った効果的な廃棄物管理戦略の策定を促すものです。土壌がプラスチック汚染の主要なシンク（吸収源）であるという発見は、農業生態系や土壌生物への影響に関するさらなる研究の必要性を示唆しています。また、マクロプラスチックが排出の大部分を占めるという事実は、包装設計の改善、建設廃棄物の適正処理、自動車部品のリサイクル促進など、特定の産業分野における対策の重要性を浮き彫りにします。効果的な廃棄物管理システムが環境へのプラスチック流出を抑制する上で極めて重要であるという結論は、他の国々が持続可能なプラスチック管理戦略を構築する上での貴重な知見となるでしょう。

概要

世界の4,4-ジクロロジフェニルスルホン（DCDPS）市場は、高機能ポリマー需要の増加に牽引され、2026年の4億9182万ドルから2036年には7億4214万ドルに達すると予測されています。DCDPSはポリスルホン（PSU）、ポリエーテルスルホン（PES）、ポリフェニルスルホン（PPSU）の重要なモノマーであり、自治体用水ろ過、航空宇宙内装、生体適合性医療機器などの分野で不可欠です。市場は現在、限られた生産設備のため供給が制約されています。

詳細

背景

現代の産業界では、極限環境下での性能維持、軽量化、長寿命化、そして高い信頼性が求められる用途が増加しており、従来の汎用プラスチックでは対応できない高性能ポリマーの需要が拡大しています。特に、耐熱性、機械的強度、耐薬品性、寸法安定性に優れたポリスルホン系樹脂はその代表例であり、その合成に不可欠な中間体が4,4-ジクロロジフェニルスルホン（DCDPS）です。

主要内容

市場調査会社Fact.MRのレポートによると、世界のDCDPS市場は2026年の4億9182万ドルから2036年には7億4214万ドルへと顕著な成長を遂げると予測されています。この成長の主要な推進力は、ポリスルホン（PSU）、ポリエーテルスルホン（PES）、ポリフェニルスルホン（PPSU）といったDCDPSをモノマーとする高機能ポリマーへの需要の増加です。これらの高性能ポリマーは、以下のような多岐にわたる先進的な分野で不可欠な材料として利用されています。

- **自治体用水ろ過:** 高効率な水処理膜の材料として、浄水システムの性能向上に貢献。
- **航空宇宙産業:** 航空機の軽量化と安全性向上のため、内装材や構造部品に使用。
- **生体適合性医療機器:** 滅菌耐性や生体適合性が求められる医療用インプラントや器具に適用。
- **電動輸送システム:** バッテリー部品や高電圧部品の絶縁材など、EV関連部品の性能向上に寄与。

地理的にはアジア太平洋地域が市場成長を主導しており、ソルベイ、SABIC、アルケマといった主要企業が市場を牽引しています。しかし、この市場は、DCDPSを生産できる認定されたグローバル生産施設が限られているため、構造的に供給が制約されているという課題も抱えています。

影響と展望

DCDPS市場の成長は、高機能ポリマー産業全体のさらなる発展を示唆しており、特にアジア太平洋地域の産業技術革新と経済成長に大きく貢献するでしょう。水処理、航空宇宙、医療、電動化といった戦略的産業における需要増加は、DCDPSおよび関連ポリマーメーカーにとって大きな事業機会を創出します。しかし、供給制約は、原材料の安定供給と価格変動リスクを高める可能性があり、メーカーは生産能力の増強やサプライチェーンの多様化を検討する必要があります。技術革新と持続可能な生産プロセスの開発が、将来の市場競争力を決定する鍵となるでしょう。

#09 BASF、バイオマスバランスPPSU「Ultrason® P 3010 BMB」を拡充し循環経済に貢献

公開日 2026年03月31日 | BASF Japan | 日本

概要

BASFは、認証されたバイオマスバランス型ポリアリールエーテルスルホン（PPSU）のポートフォリオを拡大し、20%のバイオ循環原料を配分した新グレード「Ultrason® P 3010 BMB」を発表しました。この新製品は、家電、ケータリング、水栓金具、医療技術、電気・電子機器などの産業顧客が、再生可能資源を活用して循環型経済への移行を加速できるよう支援することを目的としています。

詳細

背景

プラスチック産業における持続可能性への要求は、地球温暖化対策と資源循環の観点からますます高まっています。特に高性能ポリマー分野では、その優れた機能性が様々な先端産業で不可欠である一方で、化石資源由来原料への依存が依然として大きいという課題があります。このため、バイオマス由来原料やリサイクル原料を活用した製品開発が喫緊の課題となっています。

主要内容

ドイツに本社を置く化学大手BASFは、日本法人のニュースリリースを通じて、同社の高性能ポリマーであるポリアリールエーテルスルホン（PPSU）のポートフォリオを拡大し、認証済みのバイオマスバランス型新グレード「Ultrason® P 3010 BMB」を発表しました。この製品は、生産工程の初期段階で化石由来原料の一部を再生可能なバイオマス原料に置き換え、その貢献度を最終製品に割り当てるマスバランス方式を採用しています。具体的には、この新グレードには20%のバイオ循環原料が配分されており、従来のUltrason® P 3010と同等の性能と品質を維持しつつ、カーボンフットプリントの削減に貢献します。これにより、顧客企業は既存の生産設備に変更を加えることなく、持続可能性目標の達成に貢献する材料への切り替えが可能になります。主なターゲット産業は、高い耐熱性や耐薬品性、透明性が求められる家電製品、食品サービス用品、水栓金具、そして厳格な規制が適用される医療技術や電気・電子機器など多岐にわたります。

影響と展望

バイオマスバランスPPSUの導入は、高性能プラスチック市場における持続可能な素材ソリューションの選択肢を広げ、顧客企業の循環型経済への移行を具体的に支援するものです。この取り組みは、環境規制の強化や消費者の環境意識の高まりに応えるだけでなく、サプライチェーン全体の脱炭素化を促進する上で重要な意味を持ちます。特に、医療分野のように高い安全性と信頼性が求められる領域でバイオマス由来の高性能材料が利用可能になることは、業界全体の持続可能性目標達成に向けた大きな推進力となります。今後、このようなバイオマスバランス製品の供給安定性向上とコスト競争力の確保が、市場での普及をさらに加速させる鍵となるでしょう。

元記事: <https://www.basf.com/us/en/media/news-releases>

#10 BASF、CHINAPLAS 2026で高性能TPU「Elastollan® GripTec」を発表

公開日 2026年03月30日 | BASF Japan | 日本

概要

BASFはCHINAPLAS

2026において、スポーツシューズ産業向けの革新的な熱可塑性ポリウレタン（TPU）製アウトソールソリューション「Elastollan®

GripTec」を発表しました。この新製品シリーズは、グリップ性能の向上、設計の自由度の拡大、そして持続可能性の強化を特徴としています。

詳細

背景

スポーツシューズ市場は常に革新を求め、アスリートのパフォーマンス向上と一般消費者の快適性・安全性の両立を目指しています。特にアウトソールは、地面との唯一の接点として、卓越したグリップ力、耐久性、軽量性、そして近年では環境負荷低減といった、多岐にわたる要求性能を満たす必要があります。異なるスポーツや路面状況に対応するための、柔軟な材料設計と機能性の両立が課題とされてきました。

主要内容

化学大手BASFは、中国で開催された世界最大級のプラスチック・ゴム見本市であるCHINAPLAS 2026において、スポーツシューズ産業向けに開発された革新的な熱可塑性ポリウレタン（TPU）製アウトソールソリューション「Elastollan® GripTec」を発表しました。この新製品シリーズは、TPUが持つ優れた弾性と耐久性を基盤としつつ、以下の特徴を強化しています。

- 強化されたグリップ性能:**
特殊な材料配合と構造設計により、乾燥路面から湿潤路面まで、様々な条件下で優れたトラクションを発揮し、アスリートの安定性と安全性を向上させます。
- 高い設計の自由度:**
TPUの優れた成形加工性を活かし、複雑なアウトソールパターンや複数の異なる硬度の材料を組み合わせた「マルチマテリアルデザイン」の実現を可能にし、シューズメーカーにこれまでにない意匠性と機能性の両提供します。
- 持続可能性の強化:**
材料選定の最適化や、将来的なリサイクル性向上への配慮を通じて、環境負荷低減に貢献する設計が施されており、スポーツ用品業界の持続可能性目標達成を支援します。

このソリューションは、ランニングシューズ、トレッキングシューズ、インドアスポーツシューズなど、幅広いスポーツカテゴリでの応用が期待されています。

影響と展望

「Elastollan® GripTec」の発表は、スポーツシューズ産業における材料技術の新たな進化を示すものです。高性能と環境配慮を両立させるこのTPUソリューションは、ブランド各社が消費者の期待に応えつつ、サプライチェーン全体の持続可能性向上に貢献できる道を開きます。優れたグリップ力は競技パフォーマンス向上に直結し、高いデザイン自由度は製品の差別化を促進します。今後のスポーツウェア市場では、このような機能性と持続可能性を兼ね備えた材料が、製品開発の主流となると予測され、BASFのこの新製品は、そのトレンドをリードする存在となるでしょう。持続可能な素材への関心が高まる中、TPUのような高性能ポリマーの革新は、産業全体の変革を加速させる重要な要素となります。

元記事: <https://www.basf.com/us/en/media/news-releases>

#11 EUとインド・メルコスール間の貿易協定、自動車セクターとプラスチック部品サプライヤーに影響

公開日 2026年03月31日 | Plasteurope.com | 欧州

概要

欧州連合（EU）とインドおよびメルコスールとの新たな貿易協定は、困難に直面している欧州の自動車産業、特にプラスチック部品サプライヤーに一定の支援をもたらすと期待されています。これらの協定は新たな市場アクセスを提供するものの、自動車産業にとって「ゲームチェンジャー」となる可能性は低いと記事は示唆しています。

詳細

背景

欧州の自動車産業は、電動化への急速な移行、環境規制の強化、グローバルな競争圧力、そして原材料コストの変動といった複合的な課題に直面し、厳しい状況が続いています。自動車製造において不可欠なプラスチック部品のサプライヤーも、これらの市場動向に強く影響を受け、新たな市場機会とコスト効率化の必要性に迫られています。

主要内容

専門誌Plasteurope.comの報道によると、欧州連合（EU）がインドおよびメルコスール（南米南部共同市場）と締結する新たな貿易協定は、苦境にある欧州の自動車セクターに対し、一定の支援効果をもたらすと期待されています。特に、自動車の軽量化や電装化に貢献する高性能プラスチック部品を供給する企業にとって、これらの協定は潜在的な新しい市場アクセスを提供します。関税の引き下げや貿易障壁の緩和を通じて、欧州の自動車メーカーおよびその部品サプライヤーは、成長著しいインド市場や南米市場への輸出機会を拡大できる可能性があります。

しかし、記事はこれらの貿易協定が欧州自動車産業全体にとって「ゲームチェンジャー」となる可能性は低いと慎重な見方を示しています。その理由として、グローバルサプライチェーンの複雑性、激しい市場競争、各地域の異なる規制要件、そして消費者の多様な嗜好といった要因が挙げられます。プラスチック部品サプライヤーへの恩恵も、協定の詳細内容と、各企業が新たな輸出機会をどれだけ効果的に活用できるかに依存するとされています。

影響と展望

これらの貿易協定は、欧州のプラスチック部品サプライヤーにとって、新たな成長機会を探る上で重要な足がかりとなります。特に、インドやメルコスール諸国における自動車生産の拡大や、環境規制への対応としての軽量化・高機能化のトレンドは、先進的なプラスチック材料の需要を喚起するでしょう。しかし、単に市場アクセスを得るだけでなく、現地のニーズに合致した製品開発、効率的な生産・物流体制の構築、そして現地パートナーとの強固な連携が、成功の鍵となります。欧州の自動車産業全体としては、これらの協定が提供する機会を最大限に活用しつつも、技術革新への継続的な投資と、より持続可能でレジリエントなサプライチェーンの構築を通じて、長期的な競争力を確保する必要があるでしょう。

#12 自動車産業、ELVR目標達成に向けた再生材不足に直面

公開日 2026年03月30日 | Plasteurope.com | 欧州

概要

Conversioの調査によると、再生材の限られた入手可能性が、自動車産業が使用済み車両リサイクル（ELVR）目標を達成する上で障害となる可能性が指摘されています。自動車セクターは、再生材料の確保において他の産業との競争に直面しており、より多くの再生材を車両に組み込むという目標達成が困難になっています。

詳細

背景

循環型経済への移行は、自動車産業においても喫緊の課題であり、欧州を中心に強化されている使用済み車両リサイクル（ELVR: End-of-Life Vehicle Recycling）指令などの規制は、自動車メーカーにリサイクル率の向上と再生材使用の義務化を求めています。これは、天然資源の消費を抑制し、環境負荷を低減することを目的としていますが、その達成には高品質な再生材の安定供給が不可欠です。

主要内容

専門誌Plasteurope.comが報じたConversio社の調査結果によると、自動車産業はELVR目標の達成に向けて、再生材、特に再生プラスチックの限定的な入手可能性という深刻な課題に直面していることが明らかになりました。この調査は、自動車セクターが、建設、包装、電気・電子機器など、他の主要産業と再生材料を巡る激しい競争に晒されている現状を浮き彫りにしています。自動車部品への要求品質は非常に高く、再生材を安全かつ高性能な部品に利用するためには、高い純度と安定した物性が求められますが、現在のリサイクルインフラとプロセスでは、その需要を満たす十分な量の高品質な再生材を供給できていないのが実情です。

この材料不足は、自動車メーカーが新しい車両に再生コンテンツをより多く組み込むという目標を達成する上で大きな障害となっています。また、リサイクル市場における競争激化は、再生材の価格を押し上げ、自動車産業のコスト構造にも影響を及ぼす可能性があります。

影響と展望

再生材不足は、自動車産業の環境目標達成を困難にするだけでなく、企業のブランドイメージや規制遵守リスクにも影響を与えます。この課題に対処するためには、以下のような多角的なアプローチが必要です。

- **リサイクルインフラへの大規模投資:**
高品質な再生材を安定供給するための、選別・破碎・洗浄・再加工技術の強化と規模拡大。
- **設計段階からのリサイクル性考慮:**
自動車の設計段階から、将来的な解体・リサイクルを容易にするための「Design for Recycling」アプローチの徹底。
- **異業種間連携と政策的支援:**
再生材の効率的な配分や、特定の産業における再生材使用義務の調整に関する政策的議論。
- **新しいリサイクル技術の開発:**
化学リサイクルなど、機械的リサイクルでは困難な混在プラスチックや複合材料のリサイクル技術の開発促進。

自動車産業は、これらの取り組みを通じて、持続可能なサプライチェーンを構築し、循環型経済への貢献を強化していくことが求められています。

#13 Evonik、界面活性剤およびポリウレタン添加剤製品の価格を値上げ

公開日 2026年04月02日 | PUdaily | ドイツ

概要

Evonik Operations

GmbHは、シリコンベース製品を最大10%、界面活性剤およびポリウレタン添加剤事業ラインのその他の製品を最大15%値上げすると発表しました。この価格調整は、原材料、人件費、エネルギー、ユーティリティ、包装、物流における顕著なコストインフレに主に起因するものです。

詳細

背景

近年、グローバルサプライチェーンの混乱、原油や天然ガスなどのエネルギー価格の高騰、世界的なインフレ傾向は、化学産業における原材料、製造、物流のコスト構造に甚大な影響を与えています。特に、幅広い産業で機能性向上に不可欠な特殊化学品、例えば界面活性剤やポリウレタン添加剤などは、その価格変動が多岐にわたる最終製品に波及する可能性があります。

主要内容

ドイツに本社を置く大手特殊化学品メーカーであるEvonik Operations GmbHは、界面活性剤およびポリウレタン添加剤事業ラインの製品ポートフォリオについて、最大15%の価格引き上げを発表しました。具体的には、シリコンベースの製品は最大10%、その他の製品は最大15%の値上げが即時適用されます。Evonikは、今回の価格調整の主な理由として、原材料費、人件費、エネルギー、ユーティリティ、包装資材、および物流コストにおける顕著なインフレ圧力を挙げています。同社は、これまでこれらのコスト上昇を内部努力で吸収し、顧客への安定供給を維持するよう努めてきたものの、現在の市場環境では価格調整が不可避であると判断しました。また、進行中のグローバル市場の不確実性を考慮し、さらなる価格改定の可能性も示唆しています。

影響と展望

Evonikによる界面活性剤およびポリウレタン添加剤の価格値上げは、これらを主要な構成要素とする様々な産業に広範な影響を及ぼすでしょう。これらの製品は、ポリウレタンフォーム（自動車内装、家具、断熱材）、塗料・コーティング、接着剤、シーラント、繊維加工、パーソナルケア製品など、非常に多岐にわたる最終製品に使用されています。したがって、今回の値上げは、これらの産業における製品コストの上昇を招き、最終消費者価格にも影響を与える可能性があります。企業は、原材料調達戦略の見直し、生産プロセスの最適化、あるいはサプライヤーとの連携強化を通じて、コスト圧力への対応を迫られるでしょう。今後も、エネルギー市場やサプライチェーンの動向が不安定な状況が続く限り、特殊化学品市場における価格変動は継続的な経営課題となることが予想されます。

元記事: <https://www.pudaily.com/Home/NewsDetails/63783>

#14 三菱ガス化学、鹿島工場でのポリカーボネート生産を2028年3月に終了へ

公開日 2026年03月31日 | chemXplore | 日本



概要

三菱ガス化学（MGC）は、2028年3月末をもって鹿島工場におけるポリカーボネート（PC）の生産を終了すると発表しました。この決定は、ポリカーボネート事業の収益性の低迷と資本効率の悪化によるもので、市場の供給過剰が価格下落を引き起こしたことが主な要因です。鹿島工場のPC生産能力は年間12万トンでした。

詳細

背景

ポリカーボネート樹脂は、その優れた透明性、耐衝撃性、耐熱性、寸法安定性から、「エンジニアリングプラスチックの五大汎用樹脂」の一つとして、自動車部品、電気・電子機器、光学ディスク、医療機器など幅広い産業で不可欠な材料として利用されてきました。しかし、近年、特にアジア地域における新規生産設備の増設と能力増強が加速し、世界的に供給過剰状態が常態化しています。これにより、ポリカーボネートの市場価格は低迷傾向が続き、多くの生産者にとって収益性の確保が困難な状況となっています。

主要内容

日本の大手化学メーカーである三菱ガス化学（MGC）は、このような厳しい市場環境を背景に、同社の鹿島工場におけるポリカーボネート生産を2028年3月末をもって終了する戦略的な決定を発表しました。この撤退は、長期にわたるポリカーボネート事業の収益性の低迷と資本効率の悪化が主な理由とされています。鹿島工場が有していた年間12万トンのポリカーボネート生産能力は、日本のPC供給において重要な位置を占めていましたが、世界的な供給過剰による価格競争の激化が、国内での生産事業の継続性を困難にしたと分析されます。MGCは、今回の事業再編を通じて、事業ポートフォリオの最適化と経営資源の選択と集中を進める方針です。なお、同社は海外生産拠点を通じて国内のポリカーボネート需要への対応を継続する意向を示しており、鹿島工場に影響を受ける従業員に対しては、継続雇用を優先する方針を表明しています。

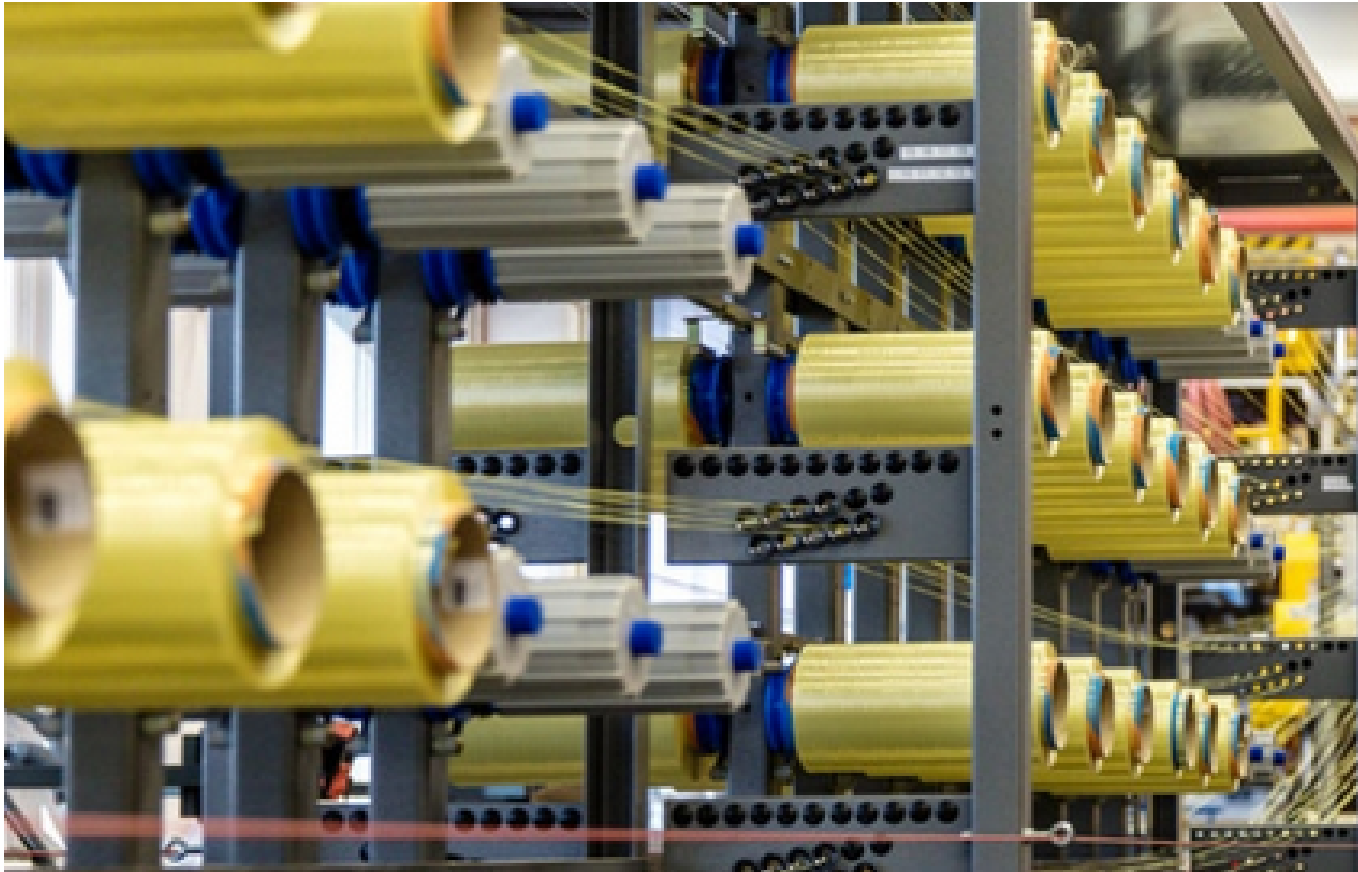
影響と展望

三菱ガス化学による鹿島工場でのポリカーボネート生産終了は、日本の化学産業、特に高機能樹脂市場における構造変化の象徴的な出来事です。この決定は、国内生産能力の再編を促し、日本の製造業がグローバル市場での競争力を維持するために、汎用的なポリマー生産から、より高付加価値で技術的に差別化された特殊ポリマー分野へのシフトを加速させる必要性を示唆しています。国内のポリカーボネート需要家にとっては、今後、海外からの供給への依存度が高まる可能性があり、サプライチェーンの安定化と多様化がより重要な課題となります。長期的には、国内メーカーは、技術革新を通じて新たな市場を創出するか、あるいは海外の生産拠点との連携を強化することで、グローバルな競争環境に適応していく戦略が求められるでしょう。この動きは、日本の素材産業が直面する構造的な課題と、その対応方向性を示すものとして注目されます。

元記事: <https://chemxplore.com/news/polycarbonate-production-discontinued-kashima-plant>

#15 帝人、コスト圧力の高まりを受け製品価格引き上げの可能性を示唆

公開日 2026年04月01日 | European Rubber Journal | 欧州



概要

帝人株式会社は、地政学的緊張と価格競争の継続によるコスト圧力の高まりを受け、製品価格の引き上げを検討していることを示唆しました。同社は、中東からの原油供給の混乱が、原材料、エネルギー、物流コストの急速な変動と大幅な増加を招いていると説明しています。内部努力だけではこれらの増大するコストを吸収しきれないと判断しています。

詳細

背景

近年、世界の経済環境は、地政学的緊張の激化、エネルギー価格の変動、インフレ圧力、そしてグローバルサプライチェーンの混乱によって大きな影響を受けています。特に、化学品や素材産業では、原油価格の動向が原料コストに直結するため、その変動は企業経営に直接的な影響を与えます。このような状況下で、製品の安定供給と品質維持は、企業にとって喫緊の課題となっています。

主要内容

日本の大手化学・繊維メーカーである帝人株式会社は、欧州の専門媒体であるEuropean Rubber Journalの報道を通じて、高まるコスト圧力に対処するため、製品価格の引き上げを検討していることを示唆しました。同社が価格改定を検討する主な要因は、以下の点に集約されます。

- **原材料コストの高騰:**
中東地域からの原油供給の不安定化が、ナフサをはじめとする石油化学製品の基礎原料価格に急速な変動と大幅な上昇をもたらしています。
- **エネルギーコストの増加:**
製造プロセスに不可欠な電力や燃料などのエネルギー費用が世界的に高騰しています。
- **物流コストの上昇:** グローバルな輸送費や倉庫費用も増加の一途をたどっています。

帝人は、これまで原材料調達の最適化や生産効率の向上といった内部努力を通じてこれらのコスト増を吸収しようと試みてきましたが、現在のコスト上昇幅は企業努力の範囲を超えていると判断しています。このため、安定した製品供給体制を維持し、高品質な製品を提供し続けるためには、製品価格への転嫁が避けられないという認識を示しています。

影響と展望

帝人による製品価格の引き上げは、同社の高機能繊維、樹脂、フィルム、医薬品などの製品を使用する自動車、電子機器、医療、航空宇宙、建設といった広範な産業に影響を及ぼす可能性があります。顧客企業は、原材料コストの上昇を織り込んだ調達戦略の見直しや、サプライチェーン全体でのコスト効率化を一層推進する必要が出てくるでしょう。また、今回の帝人の動きは、他の素材メーカーにも同様のコスト圧力がかかっていることを示唆しており、今後、産業界全体で素材価格の再編が進む可能性があります。長期的には、企業は変動する市場環境に対応するため、技術革新による高付加価値化、持続可能なサプライチェーンの構築、そして顧客との協力関係強化を通じて、レジリエンスを高める戦略が求められます。

元記事: <https://www.european-rubber-journal.com/article/2099004/teijin-signals-potential-price-hikes-amid-cost-pressures>